明治卅八年一月十四日 第三種郵便物認可

朝鮮日報

紀元二千五百六十五年
韓曆光武九年
陰曆甲辰十二月十六日

定價　壹ヶ月 金參拾錢 [illegible]
廣告 [illegible]
發行所 朝鮮日報社

社説

時局を警めて在韓同胞に告ぐ（十）

在外 [illegible] 生

日露戰役は韓國の保全に因りて起り因りて第二期戰役に移れり帝國一致の後援に賴る我出征陸海軍は連戰軒昂向ふ所可ならざるの慨あるに反し敵軍の士氣は倍々銷沈すると共に其國內の騷擾は非常なるを以てますます其頽勢を[illegible]專制政府の貪欲大に[illegible]講和說に一決せんやに傳へらるゝのみならず既に其[illegible]にして露政府へ其の申込みありたりとさへ傳へらるゝに至り露國には講和の勝利に對して殆に危懼の念を抱きたる歐洲諸強國も今や我戰勝に一點の疑念をも挾むかんとするに我精悍なる軍隊が覺て多大の犧牲を拂へ得たる光榮なる國民的勳[illegible]戰時の困難に[illegible]乃ちに現はれ

然れども敵は世界の大國露西亞にして[illegible]歐州の列強を畏怖せしめたる軍隊なり未だ容易に降る可き者にあらず殊に彼れは「ピーター」大帝以來世界併呑の大空想大野心を以て國是となし來りたる強梁なる國民にして多種多樣の人種を充たしむるを以て其の國內に於ける騷亂は未だ不當に見るべきものみなれば今回の戰役に於て彼れ一旦我に讓することあるも再び軍備を修め兵を練り捲土重來する期あるを覺悟せざるべからず

戰爭より終ける最後の勝利は戰時にあらずして却て平時にあり常に武力を充實せしめ敵國をして讓に乘ぜしめざるにあり帝軍百萬陸續千里境を臨へ海に冠す未だ以て強しと謂ふべからず軍の編制は將卒の訓練軍需品の整備と相伴ひ而して一朝戰時に際しては戰地に集中する兵數をして常に敵兵力以上たらしめ是れが集中に要する交通機關も亦敵國の夫より完備せしめざるべからず

殊に年一年に進歩する武器の改良は殺射速度と距離とを著しく增加するを以て防禦戰に有利なる丈け攻擊軍を困難ならしむるは必然なるを以て將來の戰役は愈々長期に亘るべし左れば野戰軍は少なくも二倍の兵員を要すべく[illegible]此備に由らざるべからず

通信

門司特報（十六日）

特派員 玄洋・生

◎露探と果斷 [illegible]めに露國の[illegible]る敢て露探し事にあらざる[illegible]露探捕獲し增加せるの形跡ありて[illegible]以北は既に其出沒し[illegible]近に於て捕へたる清人二名の自白する處によれば敵は我軍の倉庫に火を放ちたるものには四千留の賞金を與へ電線一本を切斷し得たるものは[illegible]の情報を[illegible]し[illegible]我軍の彈丸に捕へられ[illegible]らるゝ事むらんか其遊歷に對し二千留を與ふる契約なりと此の二名の露探清人は輕罪に處せられたるが大連に於ても我日捕人一名我兵糧倉庫に放火せむとたる現場を我水兵の爲に捕へられ直に西公園に於て銃殺の刑に處せられたり以上等露探は目下各所の海軍司令部附近[illegible]居る[illegible]と本日歸來の將校は語れり

◎死刑波蘭人押送　波蘭人ミヨチンスキは上海より營口に入込み居たりしが露探の嫌疑を以て捕縛せられ軍法會議に附られ此頃審理の末死刑の宣告を受けたるが本日英航丸にて當地に押送し來り直に同船にて宇品に轉送せられたり

◎左翼軍前面の敵情　八日敵線を脫し本日歸來せし某將校曰く目下左翼軍中央前面の敵は韓家堡より馬圈子に渉りて陣地を[illegible]の距離僅かに八千米乃至五百米突にして彼等は黑溝臺附近會戰以來毎日砲擊銃の聲絕へず其最も激烈なる砲擊を爲す頃に夕刻よりして十五珊白砲を用ひ居るもの如く而も彼等は一騎兵の通りに對しても常に砲擊を送るも其照尺高く空を切つて我軍の背後に落下すれば我に於て何等の損害なく我は靜かに其の熟するを待ち居れり

敵の或る部分は奉天及び鐵嶺に向つて退却しつゝあるかの如く傳ふるものあるも之れ全く虛說にして現に我右翼方面の敵は日々增加するを見ても察知するに難からざるなり而して旅者の報によれば敵は去七八日頃總攻擊を開始するの豫定なりとの事なりしが更に其事なかりし[illegible]我軍の準備完立所に成れるを以て之を中止せしならずや[illegible]

◎商業の[illegible]　戰線にては無賃を[illegible]る爲めに彼我乃間に種々なる手段の交換ある[illegible]る人は敢て珍らしき事にあらざる[illegible]

慶尚道事情に關する釜山領事館の調査（續）

第十五　教育（二）

今三十六年度に於る生徒數の詳細を記さば

科		一年	二年	三年	四年	小計
尋常科	男	一〇二	六五	七八	六一	三〇六
	女	九五	七八	五八	五二	二八三
高等科	男	七八	五九	三一		一六八
	女	五〇	三五	一七		一〇二
補習科	男	三一	一七			四八
	女	六	一四			二〇
計	男	五二二				
	女	四〇五				總計 九二七

又卒業生の逐年數を擧ぐれば

年度	男	女
三十一年度	一七	三
三十二年度	二七	三
三十三年度	二一	五
三十五年度	二六	七
三十五年度	六五	二四

にして學校經費も從て增額を示し去る明治二十八年度には僅二千三百八十圓なりしが三十三年度には六千六百〇六圓となり三十四年度には九千九百二十六圓三十五年度には一万〇六百五十七圓、三十六年度には一萬一千九百圓の金額となれり[illegible]而して又學校敷地は[illegible]

[illegible]は校舍敷地三百六十五坪、其他の敷地四十一坪体操場一千坪其他の用地六百九十四坪よりして其總坪二千坪なり又校舍には教室十八、坪數四百十三、職員室一、坪數三十二講室六坪數百七十一、其他建物百五十坪にて總建坪數七百七十一なり其他用具及び教授用の器械七百十二点其他器械八百九十二點標本類七百五十五点の備付あり

年	保母數	助手數	園兒數	經費
明治廿年	二	一	二七	五五五
同廿一年	二	一	三〇	五七〇
同廿二年	二	一	三五	五九五
同廿三年	三	一	四〇	六二〇
同廿四年	二	一	四五	六四五
同廿五年	二	一	九二	九〇〇

幾多の園兒を教育して今日に及べるも明治三十四年皇太孫殿下御誕生祝賀紀念として有志者より寄附金を募集し其金額を將來に於ける公立幼稚園創立費に當てあるもの約三千[illegible]而して其殿[illegible]に過ぎ[illegible]數地其他維持費等の支出の途なきまて遂延未だ實行の運には至らざるなり

〔入〕圖書館　明治三十年五月釜山在留日本弘道會支會[illegible]は日本弘道會釜山支會設置を決議し規約を定め本部に其認可を稟請して其當時釜山には小中學程度の教育設備あらざるを遺憾とし明治三十五年三月三十一日開校の式を擧げ十五日より入學期間中は二日間に於て代[illegible]三十四年公立小學校に於[illegible]授業[illegible]生徒數は日韓人を併せて四十餘名[illegible]ものあり[illegible]て[illegible]を設くるに至りしが[illegible]西山下町の借用地內に一家屋を建築して事務所を移し兼て圖書を蒐集し廣く公衆の閲覽に供せんとて[illegible]る企劃[illegible]三十六年七月竣工十一月落成之れを釜山圖書館と稱し經費は一般篤志者の寄附金を以て之れに充て[illegible]何せん僅に寄附[illegible]より成立せし一の私設書籍館たるに過ぎざれば其藏書の如きも甚だ不完全なれども又讀書界に裨益するあると決して鮮少ならず

雜報

●新借款の內容

附佛國の借款に對する運動

韓廷と第一銀行との間に成れる借款は韓國の經濟に不利益なりとて三大官は第一銀行借款破毀運動を起したるも其實第一銀行の契約破毀と同時に佛國より借款を起すの下心なる由目下の事情表面佛國より借款を起すといふは憚りあるより[illegible]命を受け他等をして獻金運動を[illegible]しめ之れを表面の口實として第一銀行の契約を破毀せんと企てたるものにして其裏の陰謀なる[illegible]は韓國の外なき[illegible]で[illegible]る[illegible]運動者は嚴妃にして嚴妃は日本との借款を[illegible]ざる[illegible]蒙の獻金運動を[illegible]に佛國に向つて借款運動を起す[illegible]は陛下に[illegible]內々贊成し[illegible]し[illegible]等の運動家は第一銀行との間に成立せる三百萬圓の借入れを破約すると同時に佛國より借款を[illegible][illegible]るは[illegible]

文苑

新體歌

●君が鄕　高村 [illegible]

白むめの白きを面に、紅梅を羨脇にかへむの、妹が顏いや。
泣き濡れて、うらみ嫉みに固く凝りて逝きし乳女が、髮の枯柳。
花影に淑や含みし我が小櫛の、闇に落ちては渦小う巻く。
上苗の欄に倚りたる梅月夜歌か歌其は相聞の聲。
木匠は何に籠ろく鑿の手で凝りては心亂れ棘。
ともすれば亂る足の宿驛白馬手綱絞れば痺に喘く。
慾りては幽冥る遠かるせば愛かる物みな眠れ冬は死の聲。

●折にふれて（一）　くろしほ

徒らに惜しきものを夜半の夢、覺めての後の譏られぬかな
酒さめて君が面影ぶ夜の、春雨くだち花散りんとす。
入またん花や咲くらん故郷は、我歸らじと人やまつらん。
筆を折り魂を碎き太刀負ふて、旅立つ君を送る春の野。
戀の世に花散る嵐花散りて、また來ん春に花は咲けども。
花の旅路に追江の蛇目傘、瀨田の長橋京よりの人。
人の世の情景めたる朧夜に、花咲く門を洩る一聲の笛。
我迷に歸どならず多難り、世は消なれと溯路絶へたり。
面白き歌よむ恭の縁れ先、學校生徒呼び集ひつゝ。
長崎や諏訪の裏山椿咲き、梅かつ散る長閑けさの世や。

俳句

梅百句（其三）　古梅村

梅多き臨坂殺の長屋哉
白梅白鶴社頭の春の雪
一輪の梅を惜みて寢しけり
紅梅の遲れて咲くや藥師堂
不圖出たる谷の狹間の梅白き
梅植へて我庵月夜容多し
白梅と呼ふより外に名なき哉
江南の花江北の噂かな
梅を愛し集む八重梅すだれ南
梅の句を梅無き園に吟ず哉

小品文

劍風と朦朧　斗南生

[illegible]試みに彼が草せる九千二百尺の一節を見よ「男波女波の脊を[illegible]て蒼冥千里闇に消ゆ[illegible]く[illegible]拜と寄する波打際に[illegible]おお耕ける今宵の月を賞てたるにあらず[illegible]

閑より月を[illegible]不可なるに非ず[illegible]只之れ接續の詞とに入る可ならざるにあらず然らざれば之れ[illegible]に非らずして散漫[illegible]迷津乃極也、予は劍風の文の[illegible]を嘆ふ[illegible]同化せる[illegible]深遂の想を[illegible]たる者となせ然らば[illegible]深遂とは强て吾人に[illegible]なる者乎、[illegible]文を爲すは何の必要があつて紙上に誇る[illegible]に非ずや[illegible]更に余は[illegible]一片の[illegible]を[illegible]自己の文に自費自讓するに非らざる乎[illegible]心事隨分行事卑少余は嘔吐万斛し[illegible]んで去る

吁余は此文を[illegible]として心甚だ[illegible]戯せり、[illegible]劍風[illegible]せりや（了）

小說

佛蘭西騎兵の花（九）

英國 コーナンドイル作
日本 梅村隱士譯

世良田と若智路の對話は大分時間を費したから洞の外は最早眞闇になつてゐて新月の影明らかに輝いてゐる而して賊徒は空地の處に大きな焚火をしてゐるのである、犬も遠いからではなく夕飯の料理をする爲なので焚火の上には大きな鍋が木の枝から釣り下げられて賊共は黃色い焰の周圍を取り卷いて寢轉んでゐる、世良田は此光景をシュノーなる男がマーリック[illegible]から逃亡した時の繪で見た樣だと思つた。兵士として斯の樣な美術心を持つてゐる者は少ないのであるが世良田は其家系が好いので愛て其道の心掛が無いでも無いから、斯んな危急の場合にも不圖心中に斯樣な事を思ひ浮べるのであつた。賊徒は世良田を縛つたる木の下に投げ倒して其眼の先で[illegible]煙草を燻らしてゐる。世良田は此際どうすれは好いかと云ふ事を思ひ付く事が出來ない、一生[illegible]に出會つた十回程の危難の場合を想出しても此程の絕望の地位に在つた事は無い。而し世良田は、勇氣だ、勇氣だ、心の中に獨語した、汝は二十八歲にして輕騎隊の大佐と爲つたのは、コチロンを踊り得る爲では無いのだ、汝は佛國騎兵の花である[illegible]、汝は二百回餘戰ふ鬪つたなやなか、こんなつまらない事で其終いになつて堪るものか、斯く自ら勵まし[illegible]て[illegible]うにかして[illegible]を逃げんと思つて[illegible]邊を見廻すと云ふと此處に世良田を縛り[illegible]せたものがある。

前にも云つた通り空地の眞中には大きな火が燃へてゐる、其光りと月の光りとで近邊にある物は何でも好く見ゆるのである。空地の向側に一つの大きな樅の木がある、其木が特に世良田の注意を惹いたのは其幹及下の方の枝が悉く皮の色が變つてゐる事で極く近く共下に焚火をしたと云ふ樣子、而し其根元には樅木の一塊があるから焚火の跡は見へないけれど。倍世良田は此木の幹を眺めてゐると樅の上の處に奇麗な[illegible]靴が二足倒しまにして釘で以て靴の下の方を打ち付けてあるのである事が解つた。

それから、世良田は[illegible]身の毛のよだつを感じた。其靴は空虛の靴では無いのだ、世良田は少し身を右に動かして其下を見たが其處1個さに打ち付けられてゐる人が誰であるを見る事が出來た。それで其下に焚火をした所以も解つた。

斯から先を話すのは實に心苦しいのでまた之を筆にするは忍びない、而し讀者は一度西班牙の山賊の中に行つて見なければ彼奴がせの[illegible]殘酷なる性質を有してゐるかを話しする事が出來ない、到底之を見なければ信ずる事が出來ないから。

此處の有樣を見ると彼の輸送官馬場君の乘馬が來る道の脇に擱りて休息してゐたのが解るので世良田は心の中に彼の馬場君が佛蘭西人たるに耻かしく無い死方をした事を望むより外に仕方が無いのであつた。

之をみた世良田は餘り心持の好い事は無い世良田は隊の中で尤も元氣の好かつた青年士官の須藤をば生埋よしたと云ふ話を聞いたので怒に任せて若智路を罵つたのであるから彼奴が如何なる復讐をするか解らない而しそんな事を前以て考へてゐる遑は無かつたけれど。

若し頭領に會つた時分にも少し丁寧にしてゐた方が自分の利益であつたらうけれども最早駄目だ、ビールの瓶の栓を拔いたからは飲んで了はなければならないのだ。

朝鮮日報

東京電報

●露都講和の聲（昨日午後四時廿分着）

露都にては黒鳩公が我鋭武なる大山軍を拒ぎ勝戰を得るの見込みなく大敗に歸すべしとの危恐心甚だしく講和の要求盛んならんとす

●ノウエウレミヤ新聞は黒鳩を攻撃しステッセルを罵れり

●英國の講和閣議（同十八日午後四時廿五分着）

ロイテル發電に依れば英國内閣に於て十五日夜日露講和に關する臨時閣議を遂げたり

●莫斯科知事暗殺さる（今日午後四時廿分着）

ルーター發電に依れば莫斯科知事セルジ太公は同地裁判所附近を通過の際兇漢の爲め爆烈彈を投ぜられ殺害されたり

通信

●門司特報（二月十四日發）　特派員　安　洋生

●沙河線彼我の軍情

沙河一帶の戰線を巡視し本日入港の奏代丸にて歸來せる〇〇〇附某將校の談左の如し

沙河線一帶に於ける敵の師團數は今や實に夥だしき迄に增加し加ふるに其半數は歐露兵にして猶今日と雖も着々新遣兵の增加を見る模樣あるも實際の兵力は師團個數の割合に夥多ならざるが如し、何となれば敵は開戰以來各師團に與へたる損害を補給する能はざるを以て名は師團にして實は旅團位の兵數に過ぎざるもあれば其總數三十四萬位にて主力は奉天市街の兩方街路に在るものゝ如し從來敵は多く十三珊知の臼砲（露國にては野戰隊に之を使用せり）之れ其野戰用に便なるを以てなりしが近來露國十五珊知の野砲を到着せりとの風說あれども未だ確報に接せざりき黒溝臺會戰後の敵は已に渾河の右岸に退却し我左縱隊の中央及び右翼方面は依然として散兵壕を掘り射擊し情勢更に異狀を認めざるも右縱隊方面の敵は多少動搖の兆候を顯はせしか未だ以て活動を見る能はざりき、二月二十三日以來の積雪も廿六日に至り再び快晴に歸き殊に昨今は西比利亞の朔風大に荒さみけるより温度俄かに加はれるも尙ほ朝夕は影響及び防寒具の襟皮に氷柱は附着するを免れず、只我に有利なる點は總べて南方に障するを以て山陰なる敵陣地とは寒暖に數度の差を見る事是なり、以是兵の行動等頗る便益を得るも我軍が此處に痛心しつゝあるは目下沙河、渾河其他の各河川何れも結氷し車馬の來往自由なるも若し今日の如く温度騰昇せば直に解氷すべく左れば我軍の行動上〇〇を免れざるを以て我に於ては寧ろ寒氣の尙一層激ならん事を希望し居れり敵は多少動搖の傾向を示せしは累壤是等の會戰に出たるもの〻如し黒溝臺附近の會戰は敵が旅順陷落により攻圍軍即ち第〇軍の增加を恐れ其未だ勢力を得ざるに先ち我に一擊を加へんと欲せしもの〻如く而して沙河一帶の陣地は兵力武備共に完全し居るを以て隙の乘ずべきものなし獨り左縱隊の最左翼は即ち洗旦堡方面は我の兵力薄弱なるに乘じ自己の不利益をも顧みず全軍露出し我が左翼に進撃し來りしものにて若我〇軍の全部が此一線に到着し居たらんには此會戰を利用し一擧敵の中堅を衝き奉天を畧取せるに至りしならん然るに今や第〇軍の〇〇を結了せんとし士氣益々旺盛にして殆んど當る可からざるの概あるに由來此地方の解氷は概ね三月中旬遲く下旬頃なるを以て若し解氷後に至らば軍事行動上〇〇の勢からざれば本月下旬來月上旬にをいて或は大活動をみるに至るや未だ知る可からざるなり云々

▲北韓の敵情　本日元山より歸來せし某將校の談に會寧よりの偵察報告に曰く去月十六日四百餘騎會寧を通過し本日三百餘騎臨溟を通過し何れも咸鏡に向ひ北進したり城津の敵兵は廿六日電信を破壞し電柱は吉州迄切斷し自ら貯藏の糧秣を燒きて會部北方に向つて背進したるが敵司令部は二十九日撤退したり是等の敵兵は漸次鏡城に集中し居れるが偵察騎兵は時々吉州附近迄南下し居れり

●京城通信（二月十五日）

▲會議上疏　議政府參政内部大臣趙秉式は辭職上疏し京畿觀察使李根教も亦上疏したり

▲郡守の狼狽　瑞州郡守の報告に觀察府首郡守上京し租稅文簿を沒取搜去せしめたるを以て事務を行ふ能はず爲めに上納を遲滯し頃日すと

▲一進會と郡守　陽川郡守報告に一進會支會長食審謝會員九名を帶同し來りて民戶を搶奸し生民を蹂躪して曰く抑冤のものあり來りて本會に訴ふ本會は當に決する處あるべしと云ふ如何に指處すべきか

▲日英獨立館を修理す　日本八名獨立館を修理に着手せり

▲警務使の憤怒　警務官徐照警察上の事件に關し憲兵副官高山氏を訪問したるに高山氏曰く日本人の犯罪者を韓國巡檢に於て捉へたる時は之を日本巡査に押送し韓人犯罪者を日本巡査にれいて捉へたるとき是を韓巡檢に押越するは對等國の間における事にして韓國の如きは我が國と對等にあらず即ち韓巡檢に引渡す可からずと依て徐相照此旨警務使に轉告したるが警務使憤怒に勝へず警察事務に付て講究を加へつゝあり

▲民在留を望む　沃溝港民電報に本港監理鄭恒朝は在任常に民を愛し施政又德を以てす茲においてか大小の民情は慈母と愛兒との如し陛下に轉奏して在留任を望むと

▲鐵道院代價を請求す　龍川郡守の外部に報告する處によれば境内鐵道の爲め家屋及田地を取られ全之れを蹂躙するに代價の給付なし依て鐵道院に移照して代價を給與し以て民の望みに副はん事を望むと

▲外部より內部に照會す　[illegible]公使の照會に成興觀察使李軒鄉は施政一に其の當を失し我が軍事上害を受くる事尠なからず依て同人を免職して適當の後任者を任命すべし然らずんば成興郡守李高永を其の後任に充つるか又は署理をなすか至當なる處置を付けられたく若し遲延するが如き事あれば我が軍においては適當なる處置を行ふべしと駐箚軍司令部よりの通告ありたれば此旨照會するを以て當局の上至急處理發照を請ふと依て

▲任命　黄海觀察使徐正淳被遞し其代りには[illegible]を任す

▲採礦解除　昨日午後三時內部[illegible]は外部に照會し採礦技師解除に關して說明して曰く該礦は收入少なからざれば解雇せざるが可なるべしと

▲義和宮の學資金　義和宮殿下の學資金は東京學資金五萬元を內帑より下され宮殿下曰く米國に更に遊學すべしと云ひ送れりと

▲廣告器撤去　鍾路に廣告器を建設したる事に關し屢次交涉中なるが少しも動かず十四日外部顧問スチブンス氏日本公使館に行きて撤廢に付き協議する所ありしが若し本人にして十五日頃迄に撤去せざる時は警告を施し[illegible]

▲露兵の退還　咸興觀察使の電報によれば北兵三百余名[illegible]咸興に至りしも亦北に退還す

▲不埒なる[illegible]　[illegible]は日本勢力の狂惡なるに憤怒し頻りに日本の事業に妨害を與んと各種方面に向つて愚民を扇動しつゝあり現に廣告器排斥運動の如き或は借款問題を撤廢すべし等と唱へ頻りに妨害をなしつゝあるが如きは皆妻錫鎬より生ずる運動の如し彼は宮官廢止に對し一方ならぬ怨恨を日本に抱き居ると云々

▲氷庫設立と巡檢　[illegible]本人山本なる者の氷庫を設立せんとしたるに漢城府巡檢來りて禁止せんとしたるも聽入れざるにぞ警務廳より漢城府に照會したりと云

▲埋葬問題　埋葬會社長李準榮の請願に仁川、釜山、鎭南浦[illegible]は其商品を卸賣に便する爲め本社埋葬を請願する故査照の上埋葬權の特許を本社に與へ起工せしめん事を伏望すと

雜報

●北清に於ける我國の勢力

北京天津號を視察の了りて歸來せし某氏の談に據れば目下北京に駐屯せる露國兵は約百三十名にして天津に僅々二十餘人に過ぎず旅順開城後に於ける各國守備軍の日本兵に對する態度は一變し露兵を除くの外は大に親密の情を加へ英米兩國兵の我に對する殆んど兄弟も只ならず特に尤も注目すべきは獨佛兵の近來我兵に接近し來れるおとにして彼等は求めて我兵の爲めに勞を執るの傾あり又旅順陷落前迄は獨佛商人の機敏に立働き同方面に密輸入を爲すもの頻發相次ぎ我憲兵隊も之れが監視に盡瘁さるゝ事ありしも過日豐臺停車場にて檢擧せし以來天津北京附近殆んど杜絶せるの有樣なり而して秦皇島方面より密輸入は今尙絶えず目下盛んに生牛肉及酒類雜貨等を搬陸しつゝあるが如し天津英租界にれけ日本商人の勢力は近來大いに增加し僞造品輸入を凌ぐの狀を呈し日租界に在る中東石印局の如きは北京政府の紙幣印刷等を引受け旭洋行は鐵工所を設けて盛んに各國華客の注文に應じ居れるが其の商行の事業天津において一つの潛勢力を有し各國人も大いに注目し居るなの〻如し又開戰以來出稼商業の目的を以て戰地に向ひたる無資本商人多數あるも是れが爲め邦人の勢力を陰失せしむるに至らず而も解氷の期も來月中旬をまたざれば太沽天津方面の商業界に活氣を呈するに至る大きか

●秦皇嶋の近狀　……渡清者の注意……

十日秦皇島を發し芝罘を經て歸航したる大坂商船屋船スタンダート號事務長の談に本船は秦皇島における本年の初航海にして貨客も滿載の好況を呈したるが秦皇島芝罘間に器械水雷の浮流非常に多て他商船にれいても認めたるのみならず本船も長も三個浮流するを認め危險少からざるを以て晝間の航海は各船共中止し居れり秦皇島にれける棧橋は開平會社が特に不凍沿岸を撰み架設したる新棧橋にして本船は特に同會社に請ひ横付したるを以て貨客の揚げ下しには便益を得たるも本年は例年に比し寒氣の度強く從て此の附近も結氷し居るを以て本船にて三回の砕氷を行ひ漸く棧橋に附着するを得たり而して爰に渡清者の最も注意すべきは由來秦皇島は日英獨清の各守備隊の兵營及稅關並に旅館としては只日本人の營業に係る大和館あるのみにして乘客は必ず此の大和館に投ぜざる可からず故を以て其困難は非常にして限りある客室に多數の乘客を一々投宿せしむる能はず偶には軒下に一夜を明すの不幸を見るものすらありと之れ日本紙幣は同所に於ては通用せざるのみか日本銀貨一圓は墨西哥銀貨八十錢に相當し而も此の不常なる相場においてすら容易に兩替する所なくために食料購入は勿論一日一回發車する山海關行きの汽車切符さへ購求する能はず絶体絶命の不幸に陷るもの續出するの有樣なり之等は同所の事情を解せざるの致す所にて彼の地に渡らんとするものゝ最も注意すべき事柄なり殊に一般乘客は一刻を爭ふて上陸せんが爲めに荷物は貨物輸送に因らず手荷物として攜帶するを以て却て稅關の爲めに密輸入の嫌疑を被むり嚴重なる檢査を受け重稅を課せらるゝのみならず之に就ても注意を要すべしと云へり

●隱匿露貨發見

旅順より本日歸來せし某將校の談に旅順開城の當時敵の陸軍には莫大の露國貨幣を所有し居たる事は敵兵の自白及び我軍の偵察にして充分之を認知し居たるに開城の際受取物件に於て貨幣としては殆んど皆無なるを以て爾來我軍は種々の手段を講じ百方搜査中圖らずも敵國商人（開城迄は豫備將校たりしもの）の口よりして露軍が不法行爲によりて隱匿したるを發見したり隱匿の方法には或る外國人及び清商等と結託して其貨幣は開城前之を營口に送りもつて黒鳩軍に適宜密輸入を遂行せんと爾來同所において外人及び清人の名義にて雞卵、麵包、ビスケット、靴、酒類、砂糖、雜貨、野菜類等山の如くに購入し各所に貯藏せるを發覺したれば營口における我軍政略にて悉く之を沒收し大連灣に轉送したり、最も幾多貨幣中其幾分は將官以下將校兵卒に分配したるは事實なるが如しと

●賣藥印紙稅法に就て（滿韓賣藥商會主有田音松氏談）

滿韓賣藥の有望なるより之れが進歩を圖らんとして政府は賣藥印紙稅法の改正案を議會に提出し目下委員會に於て調查中であるが[illegible]於て輸出賣藥に對し印紙稅を免除し之を實施するの事に決したる譯である然るに余の友人よりの報知に依ると全く印紙の全廢ではなく從前の通り賣藥は一定の印紙を貼用せしめ輸出賣藥に對してのみ戻り稅を付すると云ふ事に外ならぬのである若し前說を事實とすれば大に遺憾の事である賣藥印紙を全廢したゝであれば賣藥の袋は印刷物として輸出し製劑は賣藥原料として輸出し其輸入地に於て封入するとすれば運賃は申す迄もなく海關稅も少額にて通過し營業者は非常の便利を得る事となるのである之に反し內地に於て一切賣藥として輸出するに於ては一梱にて發送し得る貨物・十倍の容積となり特に船賃の如きは才を以て運賃を定むるを以て從て十倍の運賃を仕拂ふ事となる而已ならず清韓の各稅關に於ては賣藥の定價により關稅を定むるのである茲に釜山の稅關を一例と爲さん當港に於ける稅關は例之ば一圓の定價の賣藥に就ては七錢即ち七十錢を以て實價と爲し之れに對し五分の稅を課するのである然る中は一萬圓の賣藥を輸出せんとれる中は三百五十圓の海關稅を要する次第で加ふるに賣藥原料及び印刷物として少容積にて輸入し得らるゝ者を賣藥として輸出するときは少くも荷造り料運賃等にて二百五十圓を消費するので都合一萬圓に對し六百圓の失費を要するのである自分に於ては右樣の事は內地同業者に於ては實驗を經ざるを以て之れを知らずとするも東亞公司てふ株式會社が出來て其會社は賣藥製造を以て營業項目と爲せしに付無論清韓賣藥と云ふ事に就ては會社其者に取りては實に重大なる利益問題である故に大に運動せらるゝならんと思惟し居りしに豈圖らんや意外なる結果を耳にするに至るに付今朝一二同業者に對して充分なる運動方を請求した譯である

釜山雜事

●宗教界の不振と活動　昨今宗教界一般不振にして之れが爲めに各社寺に影響する所少なからざるを以て當港の同宗には近日を卜し之れが活動の協議すべしといへり

●常議員會　釜山居留民常議員會は昨紙報道せる諸件議定の爲め來二十一日午後一時より開會の筈也

●乘合馬車設置　草梁釜山間は旅客の往來頗る頻繁なるにも係らず乘合馬車の設置なき爲め頗る不便なるを以て赤組にては該馬車設置の計畫あり說を同ふするものも他に二三あれば右計畫は實施せらるゝに至るべしといふ

●奥村太尉の送別宴　在釜山憲兵隊長たりし奥村太尉の榮轉に就ては過日の本紙に記載せる如くなるが一昨夜は其親友數十名鳴戸樓に集りて盛んなる送別會を催したり

●電燈會社總會（昨日）　電燈會社にては愈々明廿日を以て總會を開き過般重役會議において決議したる事項を協議の筈

●奥村憲兵隊長　小倉に赴任すべき同隊長は昨日各會社官衙新聞社等に暇乞を告げられたり

●石崎支店長　石崎商船會社支店長は今明日中に大邱より歸港せらるべし

●昨年の今日

昨年の今日は近衛各聯隊に軍旗を親授せられたるの日也、近衛及び第二、第十二、第三師團は彼の日露の第一戰鴨綠江に參加したる者にして其名譽ある聯隊旗は今や世界に類ひ稀なる光輝を放ちて沙河を超えて何の處にか屯せん

社告

元山支社主任　淺野虎三郎

弊社今般元山津に支局を開始し右淺野虎三郎氏を以て主任とし通信及本紙賣捌其他廣告取扱等を致させ候間續々御愛讀御申込の程願上候

朝鮮日報

小說

露探狩り　黑潮

（二十）發狂するのも無理はない

思ひかけ無きときには思ひかけ無き事あり今しも杵島は片手にピストルを握りてお梅の襟上をつかみたる左手に力をこめ其顏をひき向けんとするトタン、廊下に忙だしき足音して此室へ入込み來りしは瘦ぎすの紳士工藤警部なりき、

「ヤヽ、杵島さん、痴話喧嘩所ぢやないです、大變な事を發見しました、……あお待ちなさい其方の事より御同樣の身が大事ですからな」

杵島は彼お梅をつかみたる手を離さず、邪見にもグイと引寄せて殆んど己が膝の下に組敷かんばかりにしつゝも、いつしか[illegible]せる短銃を擲り落し、

「ばれたかね工藤君……」

と叫びたり、

工藤「さうせばれりや首の座に直ると思つて覺悟の仕事ですが、私はどうも不思議で堪らなかつた事がある、でも、あの尾の道の別莊で狗を捕へて逃した時の事から私の疑、汽車中の失策を考へて見ますと我々の身体には己に其筋の手が廻つて居るです、今朝も早や貴下の所を伺ふと思つて此所の前まで來ますと驚いたですな、例の汽車中の賊があの時の狗と二人で何か話してゐるでせう私は愕として先方に覺られない樣に橫丁に匿れて、[illegible]を遣り過して漸く此所まで來たんですが、杵島さんもう駄目です、覺悟しなけりや……」

杵島はつかみたるお梅の襟上を外づしてずッカと座り、それと同時に先の短銃を再び拾上げながら、

「もう駄目だ、工藤君」

「お待ちなさい杵島さん、お待ちなさい」

工藤は何を云はんとするもの如くなれど杵島の眼はお梅の身体より離れず、

「やいお梅、もう駄目だ逃しもせぬ、逃げやうとも逃がすものか」

閃めく短銃、響く一聲。

女ながらも新橋の梅の蕊と謳はれて天下の志士を以て任ずる英俊奇拔の陸健子と相許せし相愛のお梅、如何にして狂ひに狂ひし杵島の振り廻す短銃の的を逃れたりけむ、結ひ上げし許りと見ゆるの新橋髷の艶々しきに着たる衣さへ新らしき襟りたる總て世の苦勞は何所にあるらんと見ゆる面影。

所は播州龍野の揖保川邊、春とは云へど尙は寒き、淺き川瀨を行く水の氷らん計り冷たき風に吹き曝さるれども厭ひは世になつかしき岸從三なりき。

●小說的の大賊（其二）

破獄者入澤億市の

▲第壹の申立

[illegible]から訊問に從ひたる[illegible]切れず彼が第一の申立ぞ面白けれ、吉田敬一と名乘るは其亦の僞り且つ辯護士といふも一時の出任せなり實は自分は新潟縣西頸城郡某村士族無職業小林佐一郎（卅八年）にて明治卅五年明法學校卒業、東京地方裁判所に屬する監獄館に從事せしが其後辭職し今回明治大學より依賴を受け京城、釜山、仁川等に於て校友を募集すべく渡航せり且つ自分は同時に法律を教授したき考へなるより身分卑しければ世の信用も薄きと存じ茲に惡しき事とは知りながら辯護士なりと僞り御手數を懸け恐入ました亦吉田敬一と名乘りし所以は全く怨の友の名を僞りしに相違御座いませんと誠しやかに申立たり

▲怪しき口振り

これが申立に依れば該程喰つまりの窮め一時の出來心より氏名職業を僞りしのみと思はれ之れは結局拘留位にて事濟むべきかも、是彼が剛智なる動もして企に出網を脫して再び晴天白日の下に惡事をなすやも知れぬしなり其眞面目にして悔悟の狀を示せるなど如何にも眞に迫りて流石の署長も危くも彼が舌の端に欺されんとしたりしとかやされども其筋は御承知の此奴誠に悔悟の狀あるか或は飽まで僞りなるか之を試めし與れんと態と彼が語しを信ぜる如き面持して色々と談かしに巧妙なる問を試みられたり此に彼は極めて些末なる事にて署長の烱眼に看破せられたる彼れは彼が申立の西頸城郡の頸城と言ふ字を書かしめられたる折一時執念き訊ねに彼が答へは稍曖昧となれり然其答に窮し小首を傾げたるを見て瞬間に彼が罪惡あるべきを看破られたる也署長の烱眼も驚くべき也

▲糸魚川警察の回答

此頸城の二字は小首を傾げたるより疑を挾みたる署長は、何氣なく彼を訊問所より退しめて直ちに急電を發して彼が原籍地の糸魚川警察署へ照會したり然るに其回答によれば果して署長の考への如く全然虛僞の申立なる事分明したり其回答によれば小林佐一郎なる者は今現に在宅者にして他出なきのみか況んや國外迄では思ひ寄らぬものなるより署長は再び彼を呼出して取調べたり大膽にして術は巧猾なる彼は此の時綴にして手際き謂ても驚かず再びぬからぬ顏絡で實は小林とは全く學友にして自分は校友名簿を所持せしより一時の虛言を構へし者にて實際は新潟縣長岡町士族石原[illegible]太十一年五月生[illegible]と申立たる[illegible]者よ彼れ果し[illegible]太にて[illegible]たり[illegible]が（つゞく）

●釜山の網引

釜山鎭には昔より每年舊正月十五日に裏府人と西府人とが左右に分かれて網引がある、昨日はそれであるから其網引があつた[illegible]者も見物に出かける内外人の數は山の[illegible]城の城内に入れば道の眞中に太やかなる一條の綱を置いて左右に釜山の見物人山を築いて居る[illegible]内に[illegible]入り見本[illegible]に來てありしが婦人の[illegible]でも以前と違つて逃げなかつた記者は漸次賑かなる方面に踵を轉じて行き眺れば兩方の綱が付いてありし其綱の上に澤山の綱が立て二人[illegible]旗を揭げて號令を掛ければ雙方は全力を盡して綱を引く其綱引の一般は[illegible]せず皆醉顏を帶びて意氣又嬉んに勝負を[illegible]へり中に[illegible]性、ある者は小理[illegible]もあり又腕力主義の腕を張るもありて騷しされば[illegible]なる老人等は周章狼狽すを知らず此雜踏を避けんとしては踏まるゝもあり又小兒等の足迷く逃げるもの[illegible]しき記者も二三[illegible]韓人と爭ふたも何とやら微しき勝負も日入るの頃となりて黑白を別たざるより遂に歸社せしが其勝負の結果は如何終局を告げしが兎も角く觀る目新らしき韓人の遊びとも一際の壯觀なりき

●大商店訪問記（三）

▲油[illegible]吳服店（本町）

主人懇懃に歡迎應接せられたり……拙者は殆んど韓國に生育致したので此處が故鄕でございます吳服類ですか目下は沈靜の方ですが四五月になると例年活動致します夫れから八九十の期節になると景氣が付きます今年の正月は京釜鐵道の開通に連れ內地より入る人が品物を揃いたので商賣がありました夫をより氏は當港に於ける資產家の多くは土地貸收[illegible]に於て成功したるものにして商業上に於て利益を得たるものは少なし云々と語らる

▲上原時計舖店（山下町）

主人語りて曰く……渡韓前は博多門司等に於て時計業をやつて居ました當港に來つてから、三年餘になりますが何分資本が定らぬので目的通りにまゐりません而かし是れから韓人等も文明の思想を一般に抱く樣になりませすれば此業も段々見込ありませう

▲三津乾物商（濱町）

主人曰く……鑵詰は餘り捌ける方ではございません、蕃海苔ですかイヤ是れも餘り面白い賣行ではございませんが正月中はいろ〳〵調理用のお[illegible]サハケまし た、當店の貨品は多く內地向です、素麵と乾物[illegible]を支人と製[illegible]て觀やうと思ふて居ります云々

▲日吉商店（乾物商）

本[illegible]町の全店を營む生憎主人不在店員某氏と語る…韓人は[illegible]けない方でもありません、此頃は[illegible]の分明らぬ獸皮を賣りましたこれですか陶器類です需要はありますか途中破損するのが困ります云々

▲宇田煙草店（南濱町）

主人不在店員某氏と語る……お陰様でア何うかやつて居りますヒーロー[illegible]煙は一向不向ですが內地に買入れて該品は澤山でございます店内等を見廻しに各種の煙草整然として人目を眩するに足る店は扶[illegible]き商業は[illegible]なり

●釜山商況●

輸入品の首位を占むる織物類に白木綿は昨年末に於て軍用品として多額の買上ありたると韓人の需用頗る[illegible]原產地の氣配非常にて自然製品騰貴し所へ課稅問題起りし爲め差當り韓國へ向け納稅を免るゝに勤めたる結果目下當港は荷崩みたると相場の昨年來亂調子なりし爲め各商店共賣り控の姿なり然し金巾は左程の影響なし▲紡績糸は相當取引ありて氣配も惡しからず▲明太魚一寸[illegible]氣合み▲米穀類は依然不況輸入出品共商況に於て[illegible]なし

▼相場▲

●紡績糸　攝津十手百二十六圓▲仝十六手百三十圓▲尼崎十手百二十二圓▲吉備十手百二十三圓
●白木綿　尾州上等一圓六十[illegible]六錢▲仝中等一圓四十五六錢▲仝下等一圓十七八錢
●洋金巾　上等七圓五六十錢仝並六圓六七十錢
●石油　スタンダード三圓六十錢▲世昌右油二圓九十五錢
●砂糖　香港十一圓三十錢
●セメント　淺野二圓七十錢
●明太魚　二十七圓格好

朝鮮日報

汽船釜山出帆廣告
日本郵船會社

日東丸 仁川チーフ行 二月十九日
チハヨー號 門司神戸行 二月二十日
荷客取扱所 大池回漕店

汽船釜山出帆廣告
大阪商船會社

義州丸 同 二月十九日
安東丸 同 二月十六日
群山丸 二月廿三日

アミコー 同 二月
アモイ 同 二月
アンジ子號 二月廿一日

蒼龍丸 全 二月廿五日
肱川丸 二月十九日
蒼龍丸 二月十七日
パイキンク
義州丸
群山丸
東丸
手取川丸 午前六時出帆
肱川丸 全 二月廿三日
瑞鷹丸 仁川群山間每週三回往復

大阪商船株式會社

汽船釜山出帆廣告
防長丸 二月廿二日
浦門丸 二月廿二日

荷客取扱店 三木回漕店 電話八三番

同海岸出張店 電話一七二番

汽船釜山出帆廣告
京畿丸 定期檢査中
慶尚號 全
慶賓丸 正月十六日
秦盛号 二月二十日 正月十七日
正成丸 仁川群山間航海中

釜山代理店 山川回漕店 電話一七八番

松前丸 正月
幸光丸 全 正月
寧静丸 全 正月
貫効丸 二月

山川回漕店

汽船釜山出帆廣告
若津丸 二月二十日 午後六時
國中商店

馬山浦行
山陽丸 八頭司運送部

汽船釜山出帆廣告
神代丸
崇敬丸
大有丸
大池回漕店

汽船釜山出帆廣告
永田丸
共同丸
沖永回漕店

廣告
世昌洋行汽船乘客貨物元取扱ヒ……
齋藤孝藏

世昌洋行汽船廣告
ダグマル
スルヘルク
齋藤回漕部

剃煙草は ……齋藤 大阪 合 ……商店

韓國釜山港本町 藤井平商店 電話貳四參

石鹼 パイプ 綿毛布 洋傘 メリヤス類 洗濯 曹達 香油 鏡各種 タオル 石油
硝子器 素麵 うどん びん 眼鏡類 和洋紙 まつち 韓人向雜貨一式 其他諸金物類
注文に應じ如何なる品にても薄利大勉強仕候間ドシ〜御注文の程奉願候也

健胃強壯 胃藥
商標
가위아리가실제
……
滿韓賣藥商會

京城泥峴 辯護士 皆川廣濟

東京 大慈本店
賓捌所 草梁大慈支店 栗谷出張店 萩國店

ツバメ印 香竄葡萄酒

謹告
謝類燒御見舞
……
小津釜山支店
主任 田中半助

謹告
龜村松旭堂

開明墨

滋養牛乳 メッツブ販賣
平田秀吉

材木建具 廉價販賣
平松商店

三印 醬油
小野藏商店

大坂每日新聞
萬朝報
山口新聞舖

丁寧親切
柳井旅館

獸醫
中尾新作

板材木 廉價販賣
島末商店

精白米 廉價販賣
西原商店

勉强御下宿
伊豫屋

唐津石炭
國安商店

共生齒科醫院

會席御料理 仕出し
春日

磨擦米 廉價販賣
岡本商店

時計各種 電氣メッキ
園田時計店

精養軒の牛乳 滋養豐富
礒村牧場
精良無比

靑物乾物 砂糖麥粉
遠藤商店

齒科診察治療時間
自午前八時 至午後五時
深江齒科醫院

東京日々新聞 報知新聞 大阪新報
朝鮮日報
廣告印刷大勉強取扱
大邱方面一手特約販賣所
朝日商會

蜂印 葡萄酒
齊藤商店

白鶴代理店
栗山酒店

正味四斗五升入

風邪良藥
安賓比林丸
和漢洋藥類
弓削靈藥館

廣告
佐藤古物商店

活版印刷
日本堂

廣告
長谷川商店

釜山天氣豫報